

黒部源流 赤木沢

2013年8月4日(日)～5日(月)

メンバー L: 磯部S (記)、磯部N

4日(日) 小雨のち曇り時々晴れ

日本有数の美渓を堪能しようと、はるか遠く富山市まで深夜車を飛ばす。
5時間弱で有峰林道ゲート、亀谷口に着く。10台ほどのトイレ付き駐車場で仮眠する。
この林道は夜8時から朝6時までは、閉鎖されるのだ。

翌朝、折立登山口まで車を進めると駐車場は既に一杯らしく、手前500mくらいまで林道脇に駐車していた。
残念ながら小雨の中をスタート。太郎平まで長い登りが続く。たくさん登山者が前後にいる。
ほとんどが自分たちと同じかそれ以上の年配の方たちだ。相棒ペースでゆっくりのはずが、抜いていってしまうのに驚いた。
中には20代の若者たちもいてほっとする。
前回自分が来たときは、初めてここで熱中症ぎみになったほど最初を除き日光から隠れるところが無いコースだ。
そういう意味では小雨くらいが快適であった。



太郎平までの登山道。日差しが無くてよかった。



奇跡的に晴れた！薬師沢が美しい。

太郎平からは、一気に薬師沢へ急降下していく。
だんだんと天気は回復し、沢から薬師沢小屋までのルートのお花畑を横切っていく木道が随所にあり、まるで尾瀬を思わせるような美しい世界だった。



ニコウキスゲ



チングルマの花後



キヌガサソウ



お花畑に夢中！ 右手に薬師沢

薬師沢が黒部川に合流するところに、小さな薬師沢小屋がある。
 ここはテントサイトが無いので今回は久しぶりに小屋泊だ。(ちょっと寂しかった..)。
 夕食の前までテラスで黒部源流を見ながら缶ビールを空け、至福の午後を過ごす。
 幸い日曜夜のため、ひとつの布団を一人で占有でき、快適だった。 夜中は雨...

<タイム> 折立登山口 (7:25) - 太郎平 (11:35) - 薬師沢小屋 (14:30)

5日 (月) 雨のち曇り

朝食は頼まず、ヘッドのいらない5時出発計画だったが起きれば雨。
 しかも20cmほど増水している。天気図は等圧線を書き忘れたのかと思うほど疎であり、安定していない。良く言えば大崩は無いと考えられる。
 黒部本流さえ乗り切れば赤木沢は大丈夫と予測されるので、6時頃までマイナスの状況変化が無いことを確認して出発する。
 昨日は40人ほど入深したと聞いたが、本日は他に先行した1パーティーしか見受けられない。



黒部川 何度か渡渉する



高巻き1 右手を藪に突入

ほとんど左岸をたどっていく。赤木沢出合まで約1時間半のところ、2時間半もかかってしまった。
 ちょっと増水でも本流は違うものだ。腰までならばへツれるところが胸までくると体が浮いてしまつて行けない。
 高巻きで逃げようとしたが、強引に行くには初心者には厳しい。渡渉するにも場所を選んで、しかもスクラム渡渉も一回あった。
 出合直前では左岸を2度高巻きした。幸い踏み跡は階段状にしっかりしている。
 一つめは小さく高巻き、すぐ小谷を降りる。
 二つめは上流奥に赤木沢出合の有名な景色である川幅いっばいの堰状落ち込みが見える頃、両岸が少し狭まり行く手を阻まれ右手の明瞭な踏み跡へ逃げる。
 少し上がれば、長くトラバースしていて楽に越えられた。



高巻き2 長くトラバース



右折で赤木沢出合の黒部川 増水している・・・

ここまでが技術・体力ともに核心だった。注意点としては、さすがにたくさんの方が入渓するため、高巻きに乱れた踏み跡あることだ。力がある方が安易に立ち入ると、後続が苦しむだろう。ゆっくり探せば、ほぼしっかりした踏み跡を見つけられる。

赤木沢には直には入れず左岸を乗り越えた。相棒は小雨の中、赤木沢に踏み入ったが感動する心の余力をほとんど残していなかった。しかしそれも仕方が無い。エメラルドグリーンの淵のはずが薄黄色に濁り、何段にも続くナメ状の滝が青い空に吸い込まれていくはずが白いガスの中に見えなくなっていく。もちろん寒いので水大好きな僕でさえ濡れを避けた。始終鳴り止まぬ沢音に包まれながら、ただ黙々と目の前の小滝をクリアしていく。お互いのメガネは雨で曇り、立ち止まっては拭く。気をつけるべきは雨で濡れた足元がすべらないようにするだけで、ルート取りにはちょっと増水は関係なく、技術的には楽だ。ただ気分が盛り上がらない。ほぼコースタイムで進む。



色がさえない多段の滝



言葉もなく登る相棒・・・。ほとんどは安定したルート

後半にこの沢の核心がある。それまでが開放的で緩傾斜のゆるゆる気分が、いきなり目の前に高さ30mほどの岩壁がそそり立ち、その右奥に怒涛の滝が水を落としている景色に身が引き締まる。幸いその左岸に直立の小尾根があり、そこを高巻く。前半岩で後半は樹林の中をモンキーライミングだが、かなり急傾斜だ。雨で濡れているので気持ちが悪く、ザイルを出して確保しながら乗り越えた。



迫力の大滝 正面の尾根を直登



高度感ある高巻き 下に滝壺が見える

そこから沢筋は一気に細くなり、顕著な二股を左に取り、中俣乗越を目指す。最後はお花畑となったが、稜線直前で、雪渓にぶつかった。いつもよりかなり残っている感じた。両サイド切れ目ないのでそこで登山靴に履き替えて慎重に雪渓を乗り越える。ブッシュはほとんど無く、登山道に合流した。



稜線直下の雪渓 スプーンカットに慎重に足に乗せる



北ノ俣岳 視界無くひたすら下山

本来なら、眼下に黒部源流と登ってきた赤木沢、見渡す限りのアルプスの峰々とお花畑（前に来た時は寝ころがって昼寝したな〜）のはずが、視界30mの白いガスの世界に包まれて感動している状況ではない。ただ達成感のみだ。ここから赤木岳・北ノ俣岳を越えて太郎平を経由し、折立登山口まで約6時間、有峰林道ゲートを閉鎖の夜8時までには通過しないといけないことを考えるとギリギリである。

ゆっくりしていることもできず、濡れた体を高所稜線の風にさらされながらひたすら下降した。こんな時乾いた服を1枚持ってきて良かった。赤木岳の登りは意外と長く感じた。

北ノ俣岳を過ぎると風も無くなり、天候も回復してきた。周りのお花畑が視界に現れ、やがて部分的に木道となり、やっと気分が高揚してきた。相棒も機嫌が良い。リーダーは安堵した。



太郎平に続く木道 コバイケイソウの群落が見事



雨の日は、雷鳥が活躍！

太郎平手前の景色は、ヨーロッパアルプスを思わせるほどの最高の景色だった。
折立への長い道の最後20分ほどヘッドラン残業となった。
有峰林道をすっ飛ばしてゲート閉鎖10分前に通過！とんでもなく充実感だけはあった1日が終わった。

格言： 晴れの日の美渓は異性と、それ以外の日は同性と行くべし。

<タイム> 葉師沢小屋から黒部川入渓 (6:00) - 赤木沢出合 (8:25) - 中俣乗越 (12:35) - 太郎平 (16:00) - 折立登山口 (19:10)

以上